

# 議会

12月14日に招集された第4回定例町議会は12月17日、全日程を終えて閉会しました。今定例会では、小竹町長、辻本教育長の行政報告のほか、平成21年度の一般会計、特別会計の決算認定も行なわれました。その主な内容についてお知らせいたします。

## 決算の認定

平成21年度の新冠町一般会計と簡易水道事業特別会計など7特別会計の決算は、決算審査特別委員会における審査報告を受け、それぞれ認定されました。

## 補正予算

●平成22年度一般会計  
平成22年度新冠町一般会計は、既定の歳入歳出予算額から206、268千円を追加し、総額を63億1、302万2千円としました。

## 町長行政報告

開町130年・町制施行50年記念事業の推進体制について

本町は、明治14年9月5日（西暦1881年）新冠郡各村戸長役場が高江の地に設置されてから、平成23年度で開町130年を迎えるとともに、昭和36年9月1日（西暦1961年）に町制が施行されてから50年を迎える記念すべき節目の年であり、今年度は準備の年と位置付け、これまで協議検討をまいりましたので、その経過と記念すべき各種事業の円滑な推進を図るための推進体制についてご報告いたします。  
昭和56年9月1日に開町百年を迎え、盛

「ふるさと館」を併設し、より一層地域との交流を図って行くこととされており、早期に定員を満たし、所期の目的を達成することを期待するものであります。

さらに、平成20年度に売却した旧東川小学校を利用し、居住型有料老人ホーム「おうるの郷」を運営する社会福祉法人ふくろう会が10月に認可を受け、隣接地に地域密着型特別養護老人ホームとケアハウスを整備し、総合福祉施設として地域に貢献したいとの強い意志のもと、去る11月27日に関係機関及び関係者が出席し、オープンセレモニーが行われました。この施設の開設により待機者の解消と雇用・就労の場の確保や地域の活性化に繋がることを期待しているところであります。

なお、閉校からこれまで未売却であります旧節婦小学校及び旧美宇小学校については、町のホームページをはじめ、文部科学省のホームページの全国廃校施設等の活用用途募集一覧に掲載し、全国に情報発信してまいりました。

そのような中で、先日旧美宇小学校を「各種交流施設として活用したい」旨の申し出があり、現在、申出者に係るリサーチをしているところでございますが、その結果を踏まえ学校跡利用検討会において協議の上、町の方針に基づき対応しなければならぬことから、若干の時間を頂きたいと存じます。

また、全国・全道において学校の廃校が増え、学校再利用は、厳しい状況にあることから、旧美宇小学校に係る対応を最優先し、旧節婦小学校の処分は、これまで取組んできた適正な対価による譲渡の処分方

大に記念式典が挙行され、新冠町の2世紀の創造に向けて、町民一人ひとりの英知と郷土を愛する心を育て次代へ前進することの約束をしてから、明年度で30年を迎えようとしております。

この記念すべき年に、先人の偉業に対する「感謝の心」と未来を創造する「豊かな心」を育み、町民の絆をより強固なものとするため町民参加の記念行事などを開催し、新冠町の更なる発展を祈念することを目的に各種記念事業を取り進めようとするものであります。

各種記念事業については、記念式典をはじめ町民植樹祭等のほか、冠事業として恒例事業への冠名の付記や事業の充実・拡大、さらに単年度の記念事業の実施など、各団体等から事業の提案を募ったところ、41件の提案があり、記念事業として適当か否か精査をしたところ、現段階で28事業の具体的な内容について関係課及び関係団体のヒアリングを終え、最終取り纏めを行っているところでございます。

また、この各種記念事業を推進させるための組織として、私をはじめ町議会議長、産業団体の長、自治会連合会長及び必要と認められた者で構成する「新冠町130年・町制施行50年記念事業実行委員会」を設立し、去る11月15日に開催した第1回委員会で、私が委員長を務めることとなりました。

当委員会は、事業計画及び予算の決定等を所管し、各種記念事業を円滑に推進させるための下部組織として、副町長、教育長及び課長職をもって構成する事業推進本部を設置し、副町長を本部長として各種取組みをしているところでありますが、事業

法では厳しい状況にありますので、当該施設の再利用による地域の活性化が前進できる様な検討をまいりたいと考えておりますのでご理解願います。

## 新冠町移住促進住宅の募集結果について

本町への移住を希望する方のニーズとして、戸建て中古物件の賃貸並びに取得が求められておりました。

とりわけ、町内では戸建て賃貸住宅が不足しており、ニーズに対応できる状況にないことから、この度、移住を希望する方への対応と即効性のある新たな人口増加対策として、既存の空き家を有効活用した移住者専用賃貸住宅の整備が有効と判断し、国の助成制度の過疎地域集落整備事業補助金と過疎対策事業債を活用し、字北星町に所在する昭和48年、49年に建築した旧教員住宅7戸を、若年世帯・子育て世帯が安心して暮らせる空間づくりを重視したプランを町建設協会の協力を頂き作成し、全面改修工事を行いました。

この移住促進住宅の愛称を「ナナカマド」といたしました。これは当該住宅の周辺にナナカマドが植えられていたことでもあります。入居する7戸が「ナナカマド」の語源であります。「7回釜戸に入れても燃えない丈夫な木」であるように、それが丈夫な家庭を築き、将来は新冠に根付いて欲しいとの強い思いを込めた愛称でございます。

この移住促進住宅が、去る11月12日に完成し、14日に住宅内部を紹介する内覧会を開催したところ、新ひだか町・日高町及び

の実施方法や予算化が急務でありますので、速やかな協議・検討が求められております。

とりわけ、開町130年及び町制施行50年を記念し、本町の開拓や町政振興に特別の功労があった個人等を表彰し、これまでのご苦勞に対して感謝の意を表わすことを目的とした特別表彰に係る記念式典を平成23年9月1日に行うことといたし、今定例会において新冠町特別表彰条例の制定について提案しておりますので、ご審議を頂きご決定をお願いいたします。

## 学校跡施設再利用の状況と今後の取組みについて

まず、インターネット公有財産売却システムにより売却した旧太陽小学校は、購入した株式会社御隆倶楽部が当初計画した展示規模等を縮小しながら、フランスで活動する幻想画家ジェラルド・デイマシオ氏の絵画を展示した「太陽の森 デイマシオ幻想美術館」を本人の来日に合わせ、去る8月5日に開館いたしました。体育館を横27m、縦9mの巨大油絵の常設展示スペースとして改装し、さらに約50点の絵画等を定期的に入れ替え展示することとし、教室などを収蔵庫として利用しております。

オープン以来、多くの方々が訪れており、廃校となった学校が美術館に生まれ変わり、地域の方々に地域活性の広場として提供するとともに入館料の減免等でも、ご配慮を頂いているところであります。

また、旧若園小学校を取得した千葉県松戸市の特定非営利活動法人「誠心会」が、児童の自立支援を図る観点から義務教育終



苦小牧市など近隣町を中心に28組の家族の見学があり、好評を得たところであります。

最終入居応募は、20世帯の申請でありましたが、5世帯が収入不足や書類不備等により書類選考で除かれ、15世帯がそれぞれ希望する住宅に応募し、最終競争率は6戸が2倍、1戸が3倍となりましたので、応募者全員が参加した抽選会を実施し、7世帯18名の入居予定者が決定いたしました。それぞれが諸手続きを終え、年内の入居に向け準備されているところであります。入居決定した若年家族の皆さんが地域コミュニティなどへの参加により地域の活性化に繋がることを期待しているところであります。



了後、児童養護施設・児童自立支援施設等を退所し、就職する児童等に対して、相談その他の日常生活の援助及び生活指導並びに就業の支援を行い、あわせて援助の実施を解除された者への相談その他の援助を行うことにより社会的自立の促進に寄与することを目的として、道内では4ヶ所目の児童自立援助ホーム「新冠こたがわ学園」が、去る10月1日に開設し、同月16日に多くの関係機関・関係者の出席のもと開園式が行われたところであります。

当該施設の定員を6人とし、スタッフ3人での運営をスタートさせ、将来的に最大定員20人の受け入れをはじめ、各種大学等の学生サークルや部活動に利用できる施設として整備し、同校ゆかりの作品や記念品を展示して地域の方々が利用できる